

季節性インフルエンザHAワクチンの供給について

厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部
予防接種課

季節性インフルエンザHAワクチンの供給について

背景

- インフルエンザは、予防接種法のB類疾病に分類され、①65歳以上の者又は②60歳から65歳未満の慢性高度心・腎・呼吸器機能不全者等を対象として定期接種を実施している。
- インフルエンザHAワクチンは、現在、4社（第一三共株式会社（以下「第一三共（株）」という。）、KMバイオロジクス株式会社、デンカ株式会社、一般財団法人阪大微生物病研究会）で供給しており、年間約2,900～3,600万本（令和3～5年度）を市場へ供給しており、使用量は、年間約2,600万本（令和3～4年度。一般社団法人日本ワクチン産業協会によると、令和5年度も同程度の見込み）である。

報告事項

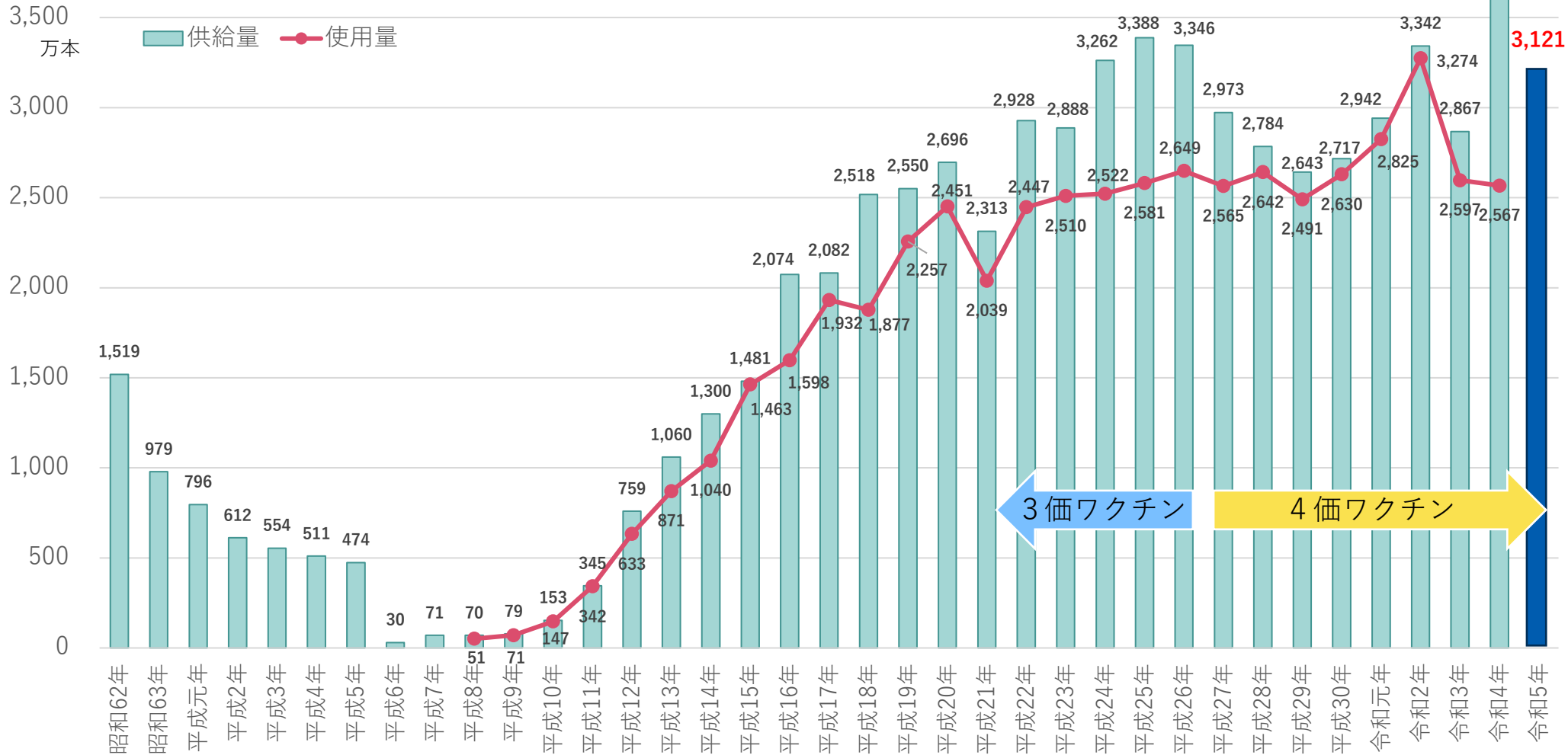
- 第一三共（株）が製造販売している「インフルエンザHAワクチン「第一三共」1mL」、「インフルエンザHAワクチン「第一三共」シリンジ0.5mL」及び「インフルエンザHAワクチン「第一三共」シリンジ0.25mL」について、2024/2025シーズン以降の生産・販売を終了する旨の報告があった。
- 第一三共（株）が2023/2024シーズンに供給したインフルエンザHAワクチンは、約480万本程度。
- 2024/25シーズンに向けた第一三共（株）以外の3社によるインフルエンザHAワクチンの生産予定数量は、現時点では2023/24シーズンにおける使用量と同程度以上の見込み。今後、製造株の収率等を精査した後、生産予定数量を部会にて報告する予定。

インフルエンザワクチンの供給量の年次推移

2023（令和5）年8月28日

令和5年度のワクチンの供給量は、製造効率等が特に良かった昨年度とは異なり、例年と同程度の供給量となる見込み。
（平成8年以降で最大の令和2年度の使用量と比較すると少ないが、例年の使用量に対し概ね十分な量が供給される見込み）

【令和5年8月現在】



※1 平成7年以前の使用量は不明

※2 1mL換算としたときの本数（1本当たり成人2回分）